



「同僚性」高く ～すべては子供たちのために～



令和8年度が始まり1か月が経ちました。学校全体としては、落ち着いた、また活気あるスタートが切れたと感じています。学年が一つ上がり、子供たちからは「よし、がんばろう!」という気持ちが様々な場面から伝わってきます。我々教職員の役割は、こうした子供たちの気持ちを後ろからそっと押したり、引き出したりすることだと考えています。一方、新しい環境で緊張している子供もいます。一人一人の子供をきめ細やかに観察し、適切な支援を行ってまいります。

さて、4月の中旬に保護者会を開催したところ、多くの保護者の方に御参加いただきました。当該学年に係る教職員の紹介、学校経営方針の説明、学年・学級経営方針の説明や行事のお知らせ等をさせていただきました。私からは、あらためて学校経営方針や配布した「校長10の約束」に位置付けている教職員の「同僚性」について説明をさせていただきました。

本校における「同僚性」とは・・・

- ① 支え合う教職員集団 ② 高め合う教職員集団 であること。

困ったとき、悩んだとき、苦しいときに寄り添い、互いに支え合う教職員集団でありたいと考えます。また、教育のプロとして、切磋琢磨しながら魅力ある授業を展開できる教職員集団でありたいと考えます。

そして、最も大切なことは、我々の姿を子供たちが常に見ているということです。教職員が自分の目標に向かって前向きに生きているか、周りの人と協力しながら問題を解決しているか、これらは合言葉「夢いっぱい 感動いっぱい 富士見小学校」に直結する大切な視点です。子供たちの手本になる教職員集団を目指します。

上の写真は、4月1日のものです。例年、入学式後に教職員の全体写真を撮るのですが、今年度の桜の満開は昨年度と比べて1週間ほど早まったため、この日に撮影しました。(そのため、不在の教職員が複数います。)GWに入りました。上の写真を御家族で御覧いただき、お子様と学校での様子をお話いただければ幸いです。GW後に、子供たちの笑顔と元気な声が戻ってくることを心から願っています。